

公立大学に於ける公開講座の意義

The Meaning of the Extension Lecture at the Public University

矢口 直道
Naomichi YAGUCHI

久保村 里正
Risei KUBOMURA

山田 綾
Aya YAMADA

Abstract

Gifu City has dealt with lifelong learning as evidenced by the declaration of the city of lifelong learning in 1996 and the establishment of the center of lifelong learning at Gifu railway station (Heartful Square G) in 2002. Though Gifu City Women's College has not offered education to students only, but continued to join Nagarakawa University, the extension lecture presented by Gifu City, it is time to have second thought about the extension of the university to the regional community under current social circumstances, such as declining birthrate and aging population and so on. This paper consists of two parts. The former discusses about the meaning of extension lecture on the basis of similar lectures in other institutes. The latter aims to show the basic document to improve extension lecture in our college through examining the questionnaire survey continuing from last year.

キーワード：生涯学習・生涯教育・公開講座・公立大学

はじめに

岐阜市は平成5年度に総合的な生涯学習推進体制の確立を目指し、「岐阜市生涯学習基本構想」を策定し、体系的な生涯学習推進組織の整備、学習機会の充実や情報の提供を計ってきた。¹ また平成8年に岐阜市は学習都市宣言を行い、岐阜市行政における生涯学習システムとして長良川大学を設立し、生涯学習のメニューの提供を、行政サービスの一環として行っている。そして平成14年1月には、このような環境整備の一環として、岐阜市駅に隣接して岐阜市の生涯学習施設としてハートフルスクエアGを設置し、設備的にも生涯学習環境の整備に努めてきた。

この様に岐阜市の生涯学習に対する一連の行政施策を鑑みると、多くの都市がそうであるように岐阜市も同様に、生涯学習に対して熱心に取り組む姿勢が伺える。² そして岐阜市が設置する高等教育機関である本学も、もちろんこのような岐阜市の施策とは全く無縁ではなく、今まで岐阜市が行っている長良川大学に参加し、講座の一部を開講してきた。³

しかし少子高齢化時代を迎え、大学の需要全体が低下している今現在、地域の人々が公立の大学に求める機能も大きく変化しており、従来のように大学に通学する学生に対する教育のみならず、本学の持つ教育と研究という機能を、地域に対して解放する事が求められてきている。そういう意味では今までの大学運営のように、地域に対して大学の余力をもって貢献するのではなく、大学運営の一つの大きな柱として地域に対する教育・研究での貢献を行わなくてはならなく、特に本学のように

公立で設置された学校の場合、それは設置の背景としても当然の事だといえる。

そこで小論では公立の大学・短期大学による地域貢献の視座にたち、短期大学という現在の本校の現状を鑑みながら、教育面を主眼に置いて、公立大学で行う公開講座について論じていきたい。

小論は大きく二つの章から構成され、その前段では公立大学の公開講座のあり方を、現在、様々な機関で行われている多くの生涯学習や公開講座の資料から、基本概念を概観として示している。そして後段では「公開講座に対する意識調査について」⁴で行った、平成14年度の意識調査をもとに、年度による比較と考察を行い、今後、岐阜市立女子短期で開催する公開講座に向けて、その充実化を計る上での基礎資料の作成を行いたいと考える。

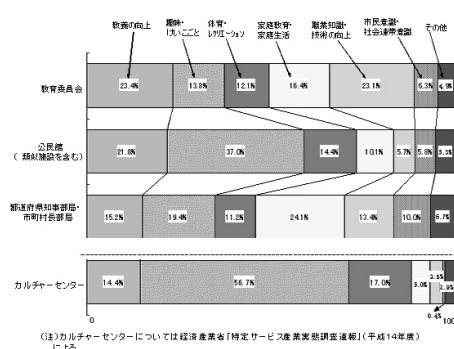
I 社会教育と公開講座

日本における65歳以上の一般世帯の総数は、2000年の1,114万世帯から2025年には1,843万世帯へと1.65倍に増加し、65歳人口の増加（1.58倍）を大きく上回る。又、更に深刻なことには65歳以上の世帯の変化を家族類型別に、いると、もっとも増加するのは「単独世帯」の2.24倍となっている。⁵つまり、今後の日本の社会は一人暮らしの高齢者が加速度的に増加することになり、高齢化社会はただ単に高齢者が増えるといっただけではなく、日本の社会構造を揺るがす、大きな社会問題だといえる。

表1 学習内容別学級・講座数^{vi}

区 分	計	〈件〉						
		職業の向上	生活向上 （生活向上）	体育・ レクリエーション	家庭・生活 向上	職業・生活 向上	市民意識・ 社会意識向上	その他
教育委員会	167,400 (106,688)	62,333 (48,408)	23,161 (21,222)	20,181 (19,539)	27,497 (21,558)	39,657 (2,538)	10,515 (9,861)	8,217 (4,714)
公 民 館 （郷土施設を含む）	354,108 (273,719)	208,310 (167,177)	130,960 (100,677)	50,826 (35,374)	35,721 (30,248)	20,077 (5,054)	20,417 (20,639)	18,757 (15,207)
都道府県知事部局 ・市町村長部局	230,419 (240,852)	79,766 (82,764)	44,782 (36,559)	25,747 (30,258)	55,510 (55,851)	30,808 (10,888)	23,086 (32,548)	15,482 (10,743)

（注）Xは平成11年度調査（平成10年度調査）の調査値である。

表2 学級・講座の学習内容別構成比^{vii}

その為、日本の人口推移における少子高齢化を食い止めるのはもちろんのことだが、高齢化社会の負の面だけではなく、高齢化社会での豊かさを考える必要がでてくる。そこで、高齢になっても市民が健康で生き活きと生活できるような社会を目指して、現在、日本では様々な地域で、様々なメニューで生涯学習が行われている。（表1）（表2）

1 生涯学習の基本概念

一般的に生涯学習というと一般的に日本では仕事を「高齢期に行う学習」及び「余暇に行う習い事」といったイメージがあるが、本来の生涯学習は年齢や趣向によって限定されるような学習ではなく、より人間の一生の生活に関わる包括的な学習だと言える。

1) 生涯学習施策の変遷

生涯学習は1965年パリのユネスコ第3回成人教育推進国際委員会で、成人教育部長のポール・ラングラン（Paul Lengrand）が取り上げ、以下のように述べたことにより、世界的に着目を受けることになった。

個人々人および諸集団の生活を向上させるために、人々の全生涯を通じる人間的、社会的、職業的発達を成し遂げる過程である。それは様々な人生段階および生活領域において啓発をもたらし、高めることを目的とし、定形的、非定形的、不定形的学習のすべてを包摂する総合的、統一的な理念である^{viii}

一方、日本では1966年（S41）の中央教育審議会「後期中等教育の拡充整備について」で「社会の諸領域における一生を通しての教育」として生涯教育が取り上げられたのを最初に、1981年（S56）には中央教育審議会答申「生涯学習について」で、

生涯学習と生涯教育を、以下のように規定している。

人間が生涯を通じて資質・能力を伸ばし、主体的な成長・発達を続けていく上で、教育は重要な役割を担っている。

人々が自己の充実や生活の向上のため、自らその自発的意思に基づき、必要に応じ、自己に適した手段・方法を自ら選んで行う学習が生涯学習であり、この生涯学習のために、社会の様々な教育機能と相互の関連性を考慮しつつ、総合的に整備充実しようとするのが生涯教育の考え方である。^{ix}

そして1991年の中央教育審議会の答申では生涯学習社会について規定し、ついで1992年の生涯学習審議会答申では生涯学習社会を築いていく重要性が示唆され、日本において生涯学習は加速度的に広まることとなった。^x 又、1996年4月24日の文部省生涯学習審議会答申「地域における生涯学習機会の充実方策について」^{xi}、1998年9月文部省生涯学習審議会答申「社会の変化に対応した今後の社会教育行政の在り方について」^{xii}等の答申を受け、現在まで多くの各地方自治体では、生涯学習社会の構築に向けて、社会教育の充実を図ってきている。

2) 社会教育と生涯学習

生涯学習が各地方自治体の中で扱われる場合、より広い枠組みである社会教育として考えられるべきだが、一般的には生涯学習と社会教育の明確な基準はなく、同意として用いられる事が多い。例えば我孫子市では、『我孫子市生涯学習推進計画』^{xiii}を策定し、市の社会教育（生涯学習）の背景として、以下の5点をあげている。

- ① 急激な社会変化
- ② 少子・高齢化社会への対応
- ③ 学歴偏重の是正
- ④ 地域の活性化
- ⑤ 自由時間の活用

ここでいう生涯学習は、おそらく社会教育とほぼ同意であり、単に言葉的に通俗性の高い生涯学習として扱っているのだと考えられる。しかし厳密に言うのなら、生活者個人のライフスタイルと関連した教育の場合は生涯学習として考えても構わないが、例えば「①急激な社会変化」に対する為の社会全般に関わる場合、生涯学習といった個人のライフスタイルに関連づけるのではなく、行政が取り組むべき課題として、社会教育と考えた方が、より適切だと思われる。我孫子市のあげた5つの生涯学習の背景は社会問題として行政が取り組まなくてはならない課題であり、個人のライフスタイルといった個々の需要ではないだろう。

生涯学習・社会教育は、日本の社会全体で考えなくてはならない課題であるが、実際に行われている生涯学習の現場は、市民の人々が生活している、それぞれとの地域という事になる。故に直接、生涯教育と関わるのは、それぞれの各都道府県や各市町村であり、国、県、市などといった各行政単位で地域教育

公立大学に於ける公開講座の意義

に対して、果たすべき役割が異なるはずである。

3) 地域における社会教育の位置づけ

地域社会の期待に応える人材育成分野

A：生涯学習・社会教育分野

1：生涯学習・社会教育活動において指導的な役割を担う
地域の人材

2：公民館・図書館・博物館・科学館等における人材

3：生涯学習・社会教育分野におけるボランティア人材

B：初等中等教育分野

1：学校運営に参画する地域の人材

2：教育の育成と確保

C：高等教育・産学連携分野

1：地域社会において必要とされる高度な人材

2：産学連携などに関する人材

D：スポーツ・青少年分野

1：スポーツに関する人材

2：青少年の健全育成に関する人材

E：文化の振興など

1：文化振興に関する人材

生涯学習・社会教育活動について『文部科学省総合評価書—地域社会の期待に応える人材育成方針—』^{xv}では、以下のよう
に役割分野を5項目に分類し、調査を行っている。

また同書では、地域社会と人材育成の分野の需要から、その
役割を以下のように述べている。

人材育成に関する国と地方の役割分担の中で、高等教育分
野については国が主にその実施の責任を担っており、自ら
大学を設置する地方公共団体を除き、地方が直接高等教育
分野に関する施策を行っているケースがそれほど多くない^{xv}

しかし、市町村が地域の人材育成の役割を単純に限定すべき
かという、必ずしもそういう訳ではないだろう。同書では高
等教育・産学連携分野において、今後、地域の果たす役割につ
いて、以下のように述べている。

大学等の研究成果の移転促進に当たりこのような専門人事
の確保・育成の必要性・重要性は最近になって指摘されて
きたところであり、国もこの様な人材を確保・育成するた
めの施策を開始しているところである。今後は地方公共団
体においても当該地域において必要となる産学官連携に資
する人材について把握し、確保・育成する必要がある。^{xvi}

又、この分野の人材育成に関しては、ニーズは高いが確保・
育成の水準が低いという調査結果がでており、今後は国だけ
ではなく積極的に地方公共団体も産業界と連携し、人材の養成・
確保を図る必要があるだろう。しかし、可能な限り地方公共団
体も役割を担う必要があるものの、それは行政の単位・規模・

資産によって決定されるべきである。

例えば高等教育を行っている地方行政として横浜市では、『第
2次横浜市生涯学習基本構想』^{xvii}の中で、推進目標として「多
彩な学習資源を生かす環境づくり」をあげており、そこでは大
学・民間教育事業者・企業との連携、大学等高等教育機関との
連携として、横浜市に設置されている地域の大学に、その役割
を積極的に求めている。

また横浜市は公立大学である横浜市立大学を設置しており、
大学の地域貢献^{xviii}について、市立大学を市の財産として位置
づけ、高等教育・産学連携分野へ積極的に活用していくことを、
以下のように述べている。

地域の貢献は、国立でも私立でもない公立大学である市立
大学が果たすべき基本的責務であり、全教職員の職務の目
的として位置づけ、市、市民、市内産業界等への寄与を明
確に出来るよう、大学の教育・研究・診療などの活動、組
織構成や運営形態などを再構築し、大学全体がこの目標に
沿った取り組みを進める。^{xix}

この様に地域における社会教育は、行政の単位、行政の規模、
行政の資産などを基本に、それぞれの地域性と、そこから発生
する問題から、地域の行政の範囲と目標を定め、社会教育にあ
たることが肝要となってくる。そして公立大学を抱える地方自
治体の場合、公立大学は自治体の抱える貴重な財産であるのだから、その地域性と設置意義を鑑み、大学と対話の中から連携
し、積極的に活用していくことが望まれる。

2 大学の地域化

公立大学が地域との関連を重視しなくてはならないのは、そ
の設置され意義から考えるのならば当然であるが、日本におい
て大学の地域化が重要視されてきたのは、きわめて最近のこと
である。その背景として一番大きいものとして考えられるのが、
日本社会の少子化による大学需要の低下であるが、近年では公
立大学だけではなく、国立大学・私立大学もそろって地域化が
重要な課題となっている。

1) コミュニティ・カレッジ

日本に比べ地方の役割の大きいアメリカでは、大学の地域化
は日本より古く、そのことについて『大衆的大学と地域経済—
日米比較研究—』では、以下のように述べている。

アメリカ合衆国では1960年代から70年代にかけて大学大衆
化の動きが本格的になり、社会人入学制度や地域の教育セン
ターとしてのコミュニティ・カレッジが大規模に制度化
されていった。アメリカ合衆国の経験で注目される点は、
大学の大衆化が単なる施設の開放や、大学に余裕がある範
囲での門戸開放にとどまらず、大学の基本的機能そのものを
地域に解放し、大衆的大学教育の論理を貫徹しようと試
みたことである。^{xx}

そして近年、日本でもアメリカに倣い、リベラルアーツを中

公立大学に於ける公開講座の意義

心としたコミュニティ・カレッジが注目されており、大学の地域化における雛形となっている。

今まで日本の大学は、その機能を研究と教育に大きく分けられ、基本的には、その両面に役割を果たしてこようとしてきた。そういう意味では大学の地域を考える場合、当然、その両方の機能から果たすべきだと思われる。しかし実際のところ、大学の扱う学問領域、設置形態、規模によっては、その両面を果たすことは現実的な問題として不可能だと言わざるを得ない。そういう意味ではリベラルアーツを中心としたコミュニティ・カレッジは、特に教育の機能に大きく重点をおいた大学の地域化として、多くの大学の模範となりうる事例だと言える。

2) 大学における社会教育

地域貢献がその設立背景から使命とされている公立の大学の場合、アメリカの大学と同様に、大学の大量化は単に片手間に行われるような事業ではなく、大学の持つ役割の一つだと考えて行うべきである。今後の公立大学では、単に地域の研究・教育面の需要に応えるだけでなく、より一歩踏み込んで自ら市民に働きかけ需要を生み出す、主体的な大学の地域化の取り組みが必要なのである。その為には従来の大学の機能をマネジメントの観点から再点検し、ヒューマンリソースしていくことが重要だと思われる。

例えば、研究機能に比重を置いた大学の場合、産学連携による研究を行い社会に還元することを目指し、高度な研究者を揃える事が重要であり、当然研究者だけではなく、リエゾン機能を担う人材も必要となってくるだろう。又、教育に比重を置いた大学の場合、教育効果を専ら専門領域の教員を配置しなくてはならないだろう。また教育に比重を置いた大学の場合、地域貢献を重視した場合、社会教育も考慮し、より多くの教員が必要になってくるかと思われる。そして大学で行うべき社会教育として、本来の大学教育のカリキュラムで行える社会教育以外に、エクステンション機能を担う人材も必要になってくるかと思われる。又、そこでは当然、地域に対する社会教育として様々な形態の公開講座が設けられるべきである。

3 公立大学における公開講座

公立大学が都道府県や各市によって設立したことを鑑みるならば、公立大学における公開講座は、各自治体の高等教育や生涯教育の枠組みの中で考えるのが望ましいだろう。しかし、公立大学と設置者である自治体が、社会教育においてその枠組みを示し行うということは希であり、多くは大学の自主性に委ねられている。

1) 学習拠点としての大学

先に述べた文部省の「地域における生涯学習機会の充実方策について」^{xxi}では、地域社会の中で様々な学習機会を提供している機関や施設を、生涯学習機能の充実という視点から検討を行う為に、機関や施設を以下の4つの類型に分けており、大学

を含む高等教育機関は生涯学習の一つの拠点として考えられている。

- ① 大学をはじめとする高等教育機関
- ② 小・中・高等学校など初等中等教育の諸学校
- ③ 社会教育・文化・スポーツ施設
- ④ 各省庁や企業の研究・研修のための施設

ここでの大学は国公立大学のみではなく、私立大学も含まれるが、先に述べたように設立の背景から地域に対する貢献が使命となっている公立大学では、地域における生涯学習の機会を大学自ら提供することは必然であり、他の大学と比較しても、より一歩踏み込んだ形での社会教育が望まれる。それは設置者と行政が同一である利点を生かし、大学が設置者の社会教育の一翼を担うのが望ましいが、大学の人材の適性が、設置者の期待する能力と大きく異なる場合が多く、実際に行うには多くの課題が残されている。

2) 大学における社会教育

また同答申は、生涯学習社会の実現に向けて、新しい教育ニーズに応えられる社会に開かれた高等教育機関として、以下の5つの提言している。この5つの提言は更に細目に分かれて具体的提言を行っており、本学の様な公立の短期大学に該当する項目を抽出すると、以下のような項目があげられる。

- ①社会人の受け入れ促進
 - ・教育内容の多様化と履修形態の弾力化
 - ・社会人特別選抜の推進
 - ・科目等履修生制度の積極的な活用
 - ・研究生の受入れ
 - ・社会体験のための休学制度の活用
 - ・大学への編入学等
- ②公開講座の拡充
 - ・公開講座・方法の改善
 - ・単位の認定
 - ・短期集中プログラムの解説
- ③学内の組織体制の整備
 - ・生涯学習センターの整備
 - ・教員の業績評価の改善
- ④社会人学生への支援の充実
 - ・学習成果の適正な評価
 - ・奨学金制度の拡充
 - ・社会人教育に関する情報提供の推進

しかし本学のような公立短期大学で実現の可能性のある事業をあげたものの、実際にはこの中でも本学単独で意志決定し施行できる内容と、積極的に設置者などの外部に働きかけなければならない内容に分かれ、残念ながら多くの事業は実現不可能だと思われる。本学としては、リカレント教育等での事業委託

公立大学に於ける公開講座の意義

や学習プログラムの開発などを推進し、市民の高度化・多様化する学習ニーズに対応していく必要があるが、当面、即効性のある実現可能な具体的な方法としては、公開講座の拡充が考えられる。

3) 公開講座

近年、公開講座は多くの大学で行われており、従来のような単に教員の知識の一端を披露するものだけではなく、入門レベルから専門レベルに至る段階的なカリキュラムに沿った高度で体系的かつ継続的なもの^{xxii}まで様々行われている。

この様な大学の公開講座大きく分けると、大学の経営を援助する有料^{xxiii}のものと、大学の宣伝を視野に入れた地域貢献による無料のものに大別される。又、更に有料の教育サービスは投資財的なリカレント教育と消費財的なライフワーク教育に分けられ、消費財的なライフワーク教育は大学教育の一端である学術的なものから、趣味的嗜好的なものまで様々である。^{xxiv}

例えば文化服装学院の行っている BUNKA ファッション・オープンカレッジ^{xxv}では、服飾に関する専門的な講座、趣味的なクラフト講座、各種検定など資格講座、教養講座、高校生対象講座などに大別でき、それぞれ目的を持って設置され内容・講師など効果的な配置を行っている。例えば自校の専門である、服飾に関する専門的な講座や専門に関する資格対応の講座は、自校の専任教員が教育にあたり、趣味的な講座に関しては外部に著名な講師を求めるなど、宣伝と経営の両面を視野に入れ、専門スタッフにより公開講座の運営にあたっている。^{xxvi}

しかし、公立大学における公開講座の場合、私立大学とは異なり、税金によって運営されていることを考え、公開講座の開講は、経営的な側面以外にも、様々な条件があると考えべきである。例えば行政が行う事業の場合、基本的には民による営業活動を圧迫しないことが原則であり、公立大学の公開講座においても、単に講座の授業料を安くすれば良いという訳にはいかないだろう。特に民間の学校でも比較的人気があり経営の柱となるような資格取得を目指した講座などを低価格で行った場合、民業を圧迫するといった面で、公立大学の行う事業としては大きな問題となってくるだろう。しかし、逆に公立大学の公開講座を、行政の行う社会教育と位置づけた場合、離職者の雇用支援として、就職支援につながる講座を行う意義は社会的にも高く、公立の大学としても必要とされている事業だと考えることが可能である。

そう考えた場合、公立大学の公開講座を今後、拡充し行う場合、その講座の在り方は、講座の性質(投資財的、消費財的)、講座の目的(ライフワーク教育、職業人教育、高齢者教育など)、講座の対象者(年齢、性別、職業など)、講座の授業料(高い、低い、無料など)などを、地域の抱える問題や課題などの実情に併せて、総合的に検討して決定しなくてはならないだろう。

II. 公開講座に関するアンケート

平成14年度には公開講座の受講者数の伸び悩みについて原因を探ることと、現状を把握し、公開講座に求められているものを探り、本学のこの後の公開講座に生かすことを目的として、アンケート調査が行われた^{xxvii}。

平成15年度は、この調査に引き続き、開講された公開講座の受講生に対してアンケート調査を行った。さらにこれに加えて、受講者の公開講座に対する満足度についても調査した。ここではこれらのアンケートの集計結果を分析するとともに、今後の公開講座に大学組織として生かしていく上での方向性を検討したい。

1 公開講座の概要

平成15年度に実施された公開講座を表1に示す^{xxviii}。本年度の公開講座は全15講座であるが、このうち主に講義によるものが3講座、実技、実習を含むものが12講座である。開講形式についてみると、1回のみ開講1講座、不定期開講3講座、数日間連続開講6講座、週1回開講4講座、月1回開講1講座である。開講時期をみると、大学の夏季休業中に集中して8講座が開講されている。

2 公開講座に対する意識調査

平成14年度は平成14年10月に岐阜を中心とする中部圏内外の218人を対象に調査を行ったが、本年度は本学で実施した公開講座のうち、6月から10月にかけて開講された講座の受講者を対象とし、大学事務局並びに調査にご賛同いただいた講師の皆様に調査を依頼した。その結果、101人の受講者から回答があった。

1) 調査項目・結果

公開講座の受講者を対象とした調査であることを考慮して重複する項目を除き、昨年とほぼ同じ項目を調査した^{xxix}。

I. あなたご自身のことについてお伺いします。

I-1. あなたの性別は

(1) 男性17名 (16.8%) (2) 女性81名 (80.2%) 無回答3名 (3%)

I-2. あなたは既婚ですか、未婚ですか

(1) 既婚75名 (74.3%) (2) 未婚24名 (23.7%) 無回答2

I-3. あなたのお住まいは

(1) 岐阜市内83名 (82.2%) (2) 岐阜市外で岐阜県内10名 (9.9%) (3) 愛知県4名 (4%) (4) その他2名 (2%) 無回答2名

I-4. あなたの年齢は

(1) 19歳以下12名 (11.9%) (2) 20歳代8名 (7.9%) (3) 30歳代30名 (29.7%) (4) 40歳代19名 (18.8%) (5) 50歳代20名 (19.8%) (6) 60歳以上10名 (9.9%) 無回答2名

I-5. あなたの職業は

公立大学に於ける公開講座の意義

表1 平成15年度岐阜市立女子短期大学公開講座一覧

講座名	日時	受講者数	回答数(1)	回答数(2)
最新の食に関するトピックス	9月6日、20日(全2回)	115	*	*
インドのお寺を見に行こう	6月7日、14日、21日、28日(全4回)	21	16	17
楽しく学ぶ英語～初級リスニング講座～	8月4日、5日、6日(全3回)	16	*	12
熟年世代のためのパソコン俳画入門	8月4日、5日(全2回)	27	*	25
小学生のための英語講座～岐阜短生と一緒に英語で遊ぼう～	8月3日、4日(全2回)	121	22	*
「住まい」づくり入門～模型をととしてリフォームを学ぶ～	8月4日、11日、18日、25日(全4回)	5	5	5
環境と造形のワークショップ～オブジェを作って空気を感じてみよう～	8月2日(全1回)	12	3	3
あなたの好みにハンカチを染めてみましょう～あなただけのハンカチを作ってみましょう～	8月2日、3日、9日(全3回)	12	4	3
食品衛生講座(安心して食べていいの?)	11月29日、12月6日、13日(全3回)	13	*	*
簡単ソーイング講座～ブラウスの制作～	9月10日、17日、18日、19日(全4回)	12	11	12
子供に英語を教えたい人のための勉強会	9月27日、10月4日、11日、18日(全4回)	38	24	16
栄養管理のためのスキルアップ講座	6月14日、10月11日、16年2月21日	121	*	*
繊維製品品質管理士(TES)の資格取得対策講座	11月1日から3月7日の間で6回	19	13	*
初級アパレルCADセミナー	8月27日、28日、29日(全3回)	2	2	2
ファッション講座 in Fashion Library	5月から2月の各月1回づつ	*	*	*

注) 回答者数はそれぞれ、(1) 公開講座に対する意識調査の回答数、(2) 公開講座に関するアンケートの回答数を示す。

*は未調査もしくは未開講を示す。

(1) 会社員15名(14.2%) (2) 公務員4名(3.8%) (3) 自営業5名(4.7%) (4) 主婦42名(39.6%) (5) 高校生1名(0.9%) (6) 大学生7名(6.6%) (7) 無職11名(10.4%) (8) その他17名(16.0%) 無回答4名

Ⅱ. あなたご自身の趣味・嗜好についてお伺いします。

Ⅱ-1. 以下のものについて、あなたが興味のあるものを選んでください。(複数回答可)

(1) 法律5名(4.9%) (2) 政治8名(7.9%) (3) 経済15名(14.9%) (4) 経営2名(2.0%) (5) 金融5名(4.9%) (6) 株5名(4.9%) (7) 商業1名(1.0%) (8) 農業2名(2.0%) (9) 畜産0名(0.0%) (10) 水産0名(0.0%) (11) 海洋2名(2.0%) (12) 地質3名(3.0%) (13) 地球環境19名(18.8%) (14) 天文5名(4.9%) (15) 航空1名(1.0%) (16) 自動車5名(4.9%) (17) 機械2名(2.0%) (18) 電気2名(2.0%) (19) 工学1名(1.0%) (20) 建築15名(14.9%) (21) 物理1名(1.0%) (22) 統計1名(1.0%) (23) 数学2名(2.0%) (24) 科学2名(2.0%) (25) 化学2名(2.0%) (26) 生物3名(3.0%) (27) バイオテクノロジー3名(3.0%) (28) 薬学4名(4.0%) (29) 医学9名(8.9%) (30) 健康36名(35.6%) (31) スポーツ21名(20.8%) (32) ダイエット21名(20.8%) (33) 芸能12名(11.9%) (34) 演劇11名(10.9%) (35) 音楽41名(40.6%) (36) 美術25名(24.8%) (37) 陶芸17名(16.8%)

(38) 写真13名(12.9%) (39) ガーデニング28名(27.7%) (40) 手芸23名(22.8%) (41) 料理34名(33.7%) (42) 食品19名(18.8%) (43) 育児18名(17.8%) (44) 教育27名(26.7%) (45) 就職7名(6.9%) (46) 福祉12名(11.9%) (47) 冠婚葬祭1名(1.0%) (48) 家事14名(13.9%) (49) インテリア26名(25.7%) (50) カラー(色彩)16名(15.8%) (51) メイク11名(10.9%) (52) ファッション25名(24.8%) (53) 国内旅行24名(23.8%) (54) 海外旅行29名(28.7%) (55) コミュニケーション11名(10.9%) (56) 通信4名(4.0%) (57) パソコン31名(30.7%) (58) ゲーム5名(4.9%) (59) コンピュータグラフィックス3名(3.0%) (60) 情報5名(4.9%) (61) 歴史17名(16.8%) (62) 宗教12名(11.9%) (63) 心理15名(14.9%) (64) 小説(執筆)5名(4.9%) (65) その他2名(2.0%)

Ⅱ-2. あなたが趣味に対して1ヶ月にかけられる金額はいくらですか

記述式で回答の得られた83名の中には、0円から40000円まであって、平均9967円だった。

Ⅲ. あなたのライフスタイルに関してお伺いします。

Ⅲ-1. あなたの主な情報源は何ですか(複数回答可)

(1) 新聞71名(70.2%) (2) 雑誌41名(40.6%) (3) 自治体の広報誌41名(40.6%) (4) インターネット35名(34.7%) (5) テレビ66名(65.3%) (6) ラジオ16名(15.8%) (7)

公立大学に於ける公開講座の意義

ポスター・チラシ14名 (13.9%) (8) その他4名 (4.0%)
無回答5名

Ⅲ-2. あなたはどのくらい図書館を利用しますか

(1) ほとんど毎日1名 (1.0%) (2) 2～3日に1回5名 (5.0%)
(3) 週に1回24名 (23.8%) (4) 月に1回37名 (36.6%) (5)
半年に1回9名 (8.9%) (6) 年に1回0名 (0%) (7) ほ
とんど利用しない21名 (20.8%) 無回答4名

Ⅲ-3. あなたはどのくらい本を読みますか(コミック・漫画・
雑誌を除く)

(1) 週1冊以上14名 (13.9%) (2) 月2冊23名 (22.8%) (3)
月1冊24名 (23.8%) (4) 2～3ヶ月に1冊11名 (10/9%)
(5) 半年に1冊13名 (12.9%) (6) 年に1冊2名 (2.0%)
(7) ほとんど読まない9名 (8.9%) 無回答5名

Ⅲ-4. あなたがよく読む本のジャンルは何ですか(複数回答
可)

(1) 文芸・ミステリー27名 (26.7%) (2) 人文・社会・ノ
ンフィクション30名 (29.7%) (3) 科学・技術4名 (4.0%)
(4) 医学・看護5名 (4.9%) (5) コンピュータ・インター
ネット7名 (6.9%) (6) ビジネス・経済3名 (3.0%) (7)
法律・資格1名 (1.0%) (8) 建築7名 (6.9%) (9) 教育・
福祉16名 (15.8%) (10) 語学14名 (13.9%) (11) 暮らし・実
用・旅行39名 (38.6%) (12) 芸能・スポーツ7名 (6.9%) (13)
美術・デザイン・写真18名 (17.8%) (14) 児童書・絵本28名
(27.7%) (15) 女性・ライフスタイル・恋愛22名 (21.8%) (16)
その他7名 (6.9%) 無回答7名

Ⅲ-5. あなたは現在、生涯教育施設(カルチャーセンター・
お稽古事)に通っていますか

(1) はい41名 (40.6%) (2) いいえ55名 (54.5%) 無回答
5名

Ⅲ-5-a. 上の質問で(1)と答えた人に質問します。何を習っ
ていますか、また1ヶ月にける生涯教育の総額はいくらで
すか

40名から回答があり、平均は、8275円だった。

Ⅳ. 大学の公開講座についてお伺いします。

Ⅳ-1. あなたは様々な大学で公開講座が行われていることを
知っていますか

(1) はい77名 (76.2%) (2) いいえ19名 (18.8%) 無回
答5名

Ⅳ-1-a. 上の質問で(1)と答えた方に質問します。あなた
は今までにどこか(岐阜市立女子短期大学以外)の公開講座を
受講したことがありますか

(1) ある19名 (24.7%) (2) ない55名 (71.4%) 無回答
3名

Ⅳ-1-b. Ⅳ-1-aで(1)と答えた方に質問です。具体的に
講座の内容を教えてください(複数回答可)

18名の回答があり、朝日大学、東海女子大学、岐阜女子大学、
中部学院大学、岐阜大学、岐阜薬科大学、東海大学、東海女子
短期大学の大学公開講座、そして岐阜市の主催する長良川大学
の講座が挙げられた。

Ⅳ-2. あなたは今までに岐阜市立女子短期大学の公開講座を
受講したことがありますか

(1) ある21名 (20.8%) (2) ない74名 (73.3%)

Ⅳ-2-a. 具体的に講座の内容を教えてください(複数回答可)

18名の記述があり、そのうち12が英語講座であり、この他に、
安全な食品、ハンカチ染め、パソコン絵手紙などがあった。

Ⅳ-2-b. Ⅳ-2の質問で(1)と答えた方に質問します。公開
講座についての情報はどこで知りましたか(複数回答可)

(1) 広報ぎふ20名 (87.0%) (2) インターネット0名 (0.0%)
(3) チラシ1名 (4.3%) (4) その他2名 (8.7%)

Ⅳ-3. Ⅳ-1-aまたはⅣ-2の質問で(1)と答えた方に質問
します。中でも興味深かった講座はどのような講座ですか
回答は得られなかった。

Ⅳ-4. あなたが公開講座に参加するとしたらどのような時期
に開講してほしいですか

(1) 4月～7月11名 (10.9%) (2) 8月～9月20名 (19.8%)
(3) 10月～11月3名 (3.0%) (4) 2月～3月2名 (2.0%)
(5) いつでもよい45名 (44.6%) (6) その他1名 (1.0%)

無回答19名

Ⅳ-5. 公開講座の行われる日はいつがよいですか

(1) 平日26名 (25.7%) (2) 土曜日21名 (20.8%) (3) 日
曜日・祭日4名 (4.0%) (4) 夏休み・冬休み等長期休暇11名
(10.9%) (5) いつでもよい10名 (9.9%) 無回答29名

Ⅳ-6. 公開講座の行われる時間帯はいつがよいですか

(1) 午前52名 (51.5%) (2) 午後13名 (12.9%) (3) 夜間
11名 (10.9%) (4) いつでもよい11名 (10.9%) 無回答14
名

Ⅳ-7. 一つの講座に関して何回行われるのがよいですか

(1) 1回5名 (5.0%) (2) 4～5回72名 (71.3%) (3)
10回以上11名 (10.9%) 無回答13名

Ⅳ-7-a. 上の質問で(1)以外と答えた方に質問します。ど
のくらいの頻度で開講してほしいですか

(1) 週1回42名 (50.6%) (2) 隔週14名 (16.9%) (3) 月
1回6名 (7.2%) 無回答21名

Ⅳ-8. 講座が数回に渡って行われるとしたらどちらの形式が
よいですか

(1) 様々な分野を組み合わせで行うオムニバス形式13名
(12.9%) (2) 1つの分野を連続で行う形式72名 (71.3%)
無回答16名

Ⅳ-9. 公開講座に参加できる人数はどの程度がよいですか

(1) 20名以下62名 (61.4%) (2) ～40名27名 (26.7%) (3)

公立大学に於ける公開講座の意義

～60名2名(2.0%) (4) ～80名0名(0.0%) (5) それ以上0名(0.0%) 無回答10名

IV-10. 公開講座を受講するならどのような対象の講座に参加したいですか(複数回答可)

(1) 小・中学生19名(18.8%) (2) 高校生7名(6.9%) (3) 親子26名(25.7%) (4) 社会人71名(70.2%) (5) 高齢者9名(8.9%) 無回答10名

IV-11. 公開講座の形式はどのようなものがよいですか(複数回答可)

(1) 講義57名(56.4%) (2) 実技58名(57.4%) (3) 実験23名(22.8%) (4) 現地講座20名(19.8%) (5) 遠隔授業(Webを使った形式) 1名(1.0%)

IV-12. 公開講座はどのような人から話を聞きたいですか

(1) 大学の教員35名(34.7%) (2) 外部講師(現場で活躍している人など) 29名(28.7%) 無回答37名

IV-13. 大学による公開講座のイメージはどのようなものですか(複数回答可)

(1) 受講料が安い44名(43.6%) (2) 受講料が高い5名(4.9%) (3) 大学の先生の講義が受けられる48名(47.5%) (4) 高度な学問を身に付けられる21名(20.8%) (5) 大学の雰囲気を味わえる23名(22.8%) (6) 難しそう6名(5.9%) (7) 楽しそう29名(28.7%) (8) 高度な学問の一端に触れられる27名(16.7%) (9) 何も思わない0名(0.0%) (10) その他0名(0.0%) 無回答9名

IV-14. 次のうち、あなたが興味のある講座は何ですか(複数回答可)

(1) 外国語41名(40.6%) (2) 外国文学10名(9.9%) (3) 人間学13名(12.9%) (4) ジェンダー論3名(3.0%) (5) 心理学35名(34.7%) (6) 情報処理10名(9.9%) (7) 人体構造と機能6名(5.9%) (8) 社会生活と健康16名(15.8%) (9) 健康科学16名(15.8%) (10) 食品の安全性24名(23.8%) (11) 栄養学13名(12.9%) (12) 調理学16名(15.8%) (13) 家庭科学11名(10.9%) (14) ファッションデザイン22名(21.8%) (15) 染色17名(16.8%) (16) 色彩学14名(13.9%) (17) グラフィックデザイン12名(11.9%) (18) プロダクトデザイン6名(5.9%) (19) インテリアデザイン27名(26.7%) (20) その他3名(3.0%) (21) なし0名(0.0%) 無回答9名

IV-15. 以下は、本学で過去に行われた公開講座です。あなたが興味のある講座は何ですか(複数回答可)

(1) 健康とスポーツ22名(21.8%) (2) 生活と文化14名(13.9%) (3) 生活の中の美術、工芸20名(19.8%) (4) 健康と食生活の目的課題を探る13名(12.9%) (5) 学問の楽しみ10名(9.9%) (6) 英米文化への招待23名(22.8%) (7) 暮らしの科学と造形7名(6.9%) (8) 食べることの楽しみ14名(13.9%) (9) 初心者のための Windows 入門12名(11.9%)

(10) 英語の諸相17名(16.9%) (11) 衣生活の愉しみ8名(7.9%) (12) 異文化発見! 16名(15.8%) (13) もっと健康になれる食生活の科学18名(17.8%) (14) 英米文化コミュニケーション25名(24.7%) (15) 生活をデザインする25名(24.7%) (16) なし2名(2.0%) 無回答17名

IV-16. 以下のうち、あなたが興味のある資格は何ですか(複数回答可)

(1) 英語検定29名(28.7%) (2) 漢字検定13名(12.9%) (3) 栄養士7名(6.9%) (4) TES(繊維製品品質管理士)10名(9.9%) (5) インテリアコーディネーター20名(19.8%) (6) カラーコーディネーター12名(11.9%) (7) 情報処理9名(8.9%) (8) TOEIC25名(24.8%) (9) TOEFL 8名(7.9%) (10) 介護福祉士8名(7.9%) (11) ホームヘルパー6名(5.9%) (12) 保育士7名(6.9%) (13) 医療事務1名(1.0%) (14) 社会労務士4名(4.0%) (15) 宅建3名(3.0%) (16) 司書6名(5.9%) (17) 学芸員7名(6.9%) (18) 心理士18名(17.8%) (19) CG 検定0名(0.0%) (20) マルチメディア検定2名(2.0%) (21) 画像処理検定2名(2.0%) (22) 秘書1名(1.0%) (23) CAD 7名(6.9%) (24) パターンメイキング5名(4.9%) (25) ファッション販売2名(2.0%) (26) ファッションビジネス1名(1.0%) (27) その他3名(3.0%) (28) なし5名(4.9%) 無回答18名

IV-17. あなたが大学で行われる公開講座に望むことは何ですか(複数回答可)

(1) 仕事に活かせる資格・技術36名(35.6%) (2) 趣味に関する知識・技術51名(50.5%) (3) 高度な教養15名(14.9%) (4) 幅広い教養36名(35.6%) (5) 専門知識19名(18.8%) (6) 悩みに関する相談4名(4.0%) (7) 人との出会い・コミュニケーション16名(15.8%) (8) その他1名(1.0%) (9) 特になし0名(0.0%) 無回答12名

IV-18. 公開講座の費用について伺います

数回の講義等を1講座とした場合、その費用はどの程度ならよいですか

-a. 趣味に関する知識や技術を身につけられる講座の場合はどの程度が適当だと思いますか

(1) 無料15名(14.9%) (2) ～2,000円46名(45.5%) (3) ～5,000円21名(20.8%) (4) ～10,000円7名(6.9%) (5) それ以上0名(0.0%) 無回答12名

IV-b. 仕事に活かせる資格や技術に関する講座の場合はどの程度が適当だと思いますか

(1) 無料1名(1.0%) (2) ～2,000円26名(25.7%) (3) ～5,000円26名(25.7%) (4) ～10,000円24名(23.8%) (5) それ以上4名(4.0%) 無回答20名

IV-19. あなたが公開講座受講の証明として望むものはありますか(複数回答可)

公立大学に於ける公開講座の意義

(1) 公開講座の修了証27名 (24.3%) (2) 大学の単位7名 (6.3%) (3) 公的な資格30名 (27.0%) (4) 何も望まない33名 (29.7%) 無回答14名

IV-20. あなたは興味のある講座があれば受けてみたいですか

(1) はい90名 (89.1%) (2) いいえ1名 (1.0%) 無回答10名

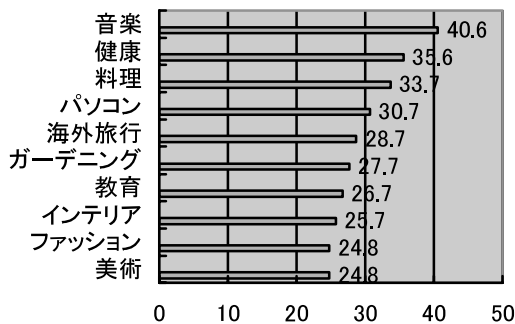
IV-21. 公開講座や大学について、ご意見がございましたら何でもご自由にお書きください。

社会人になっても学ぶ機会があってうれしい、日常生活から離れ学生気分になれた等の意見、市中心部の公共交通機関の便のよいところで開催してほしい等の要望があった。

2) 考察

以上に示した集計結果を昨年度の結果と比較する上で、本年度の調査対象が、本学公開講座受講者であることに留意する必要がある。すなわち、昨年度の調査から、一般的な傾向を、本年度の調査から本学公開講座受講者の傾向を読み取ることも可能となるのである。アンケート調査をもとに、回答者の傾向を順番に考察する。

①受講者自身に関する調査から、岐阜市内に住む30歳代から50歳代までの主婦を中心として (35.7%)、女性の割合が高いことがわかる (80.2%)。

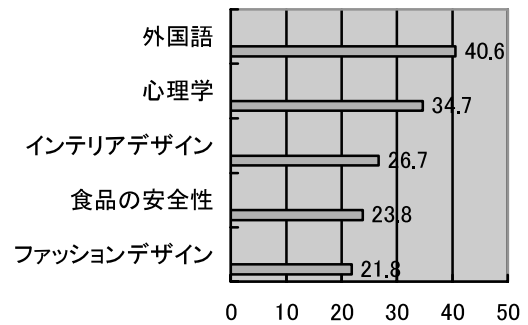


②趣味趣向について上位10位を見ると、音楽 (40.6%)、健康 (35.6%)、料理 (33.7%)、パソコン (30.7%)、海外旅行 (28.7%)、ガーデニング (27.7%)、教育 (26.7%)、インテリア (25.7%)、ファッション (24.8%)、美術 (24.8%) であり、昨年度とほぼ同様の傾向にあるが、スポーツ、国内旅行に対する関心が薄れ、教育に対する関心が高い点が指摘できる。また趣味に対してかける金額は一ヶ月あたり平均で9967円だった。

③ライフスタイルに関して、主な情報源は、新聞 (70.2%)、テレビ (65.3%) を中心に、雑誌、広報誌 (ともに40.6%)、インターネット (34.7%) であり、昨年度の調査と比べると、新聞、広報誌の割合が高い。また図書館の利用率を見ると、8割が利用しているとみることができ、昨年度の調査では約半数が利用していなかったのと対照的である。しかし、読む本のジャンルは、昨年同様「文芸・ミステリー」、「人文・社会・ノンフィ

クション」「暮らし・実用・旅行」「児童書・絵本」「女性・ライフスタイル・恋愛」の割合が高い。

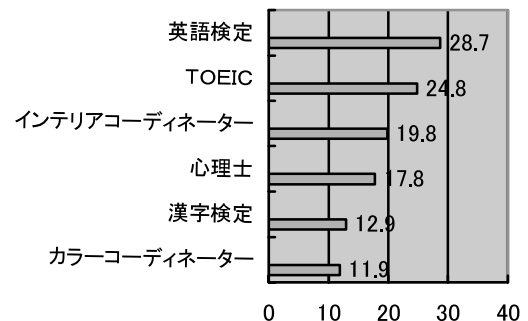
興味のある講座については、20%を超える回答が、外国語 (40.6%)、心理学 (34.7%)、インテリアデザイン (26.7%)、食品の安全性 (23.8%)、ファッションデザイン (21.8%) にあった。昨年同様の傾向である。



④大学の公開講座に関しては76.2%が知っていると回答し、実際に24.7%が岐阜市近郊の大学の公開講座を受講している。しかしこれまでに本学の公開講座を受講した回答者は20.8%にとどまっている。講座情報の入手媒体をみると、広報誌が87.0%と最も多く、インターネットによる入手は全くなかった。実際の受講者は、広報誌から情報を得ていることがわかる。

講座の形態については、平日もしくは土曜日の午前中に、週1回または各週で40人以下の社会人を対象とした、4～5回程度の講義もしくは実技に対する希望が多かった。現在の開講形態とほとんど変わらない。

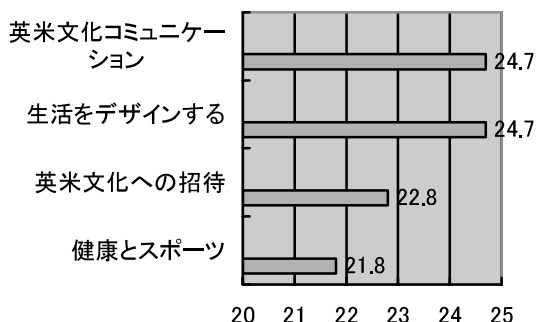
興味のある資格については、10%以上の回答が、英語検定 (28.7%)、TOEIC (24.8%)、インテリアコーディネーター (19.8%)、心理士 (17.8%)、漢字検定 (12.9%)、カラーコーディネーター (11.9%) にあった。語学、特に英語に関する資格に対して強い関心が窺える。



本学で開講された公開講座のうち興味のある講座については、「英米文化コミュニケーション」(24.7%)、「生活をデザインする」(24.7%)、「英米文化への招待」(22.8%)、「健康とスポーツ」(21.8%) の4講座が20%を越えている。この調査からも語学としての英語そのもの、英語圏の文化に対する高い関心が窺える。さらに趣味嗜好に関する調査同様に、健康や、デ

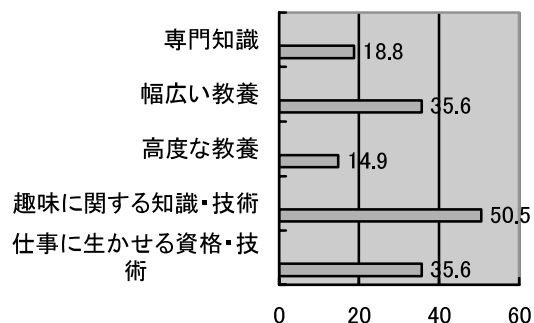
公立大学に於ける公開講座の意義

デザイン一般に関する講座にも関心が示された。



大学で行われる公開講座に対して、仕事に活かせる資格・技術 (35.6%)、趣味に関する知識・技術 (50.5%)、高度な教養 (14.9%)、幅広い教養 (35.6%)、専門知識 (18.8%) が求められており、昨年同様の傾向を示している。

最後に、自由記述からは、「社会人（主婦）になっても、勉強する機会ができて、うれしいのでもっと講座を増やして欲しい」という、講座に参加して充実したという意見があった。一方で、「大学などがある場所は行きにくいところにあることが多いので、駐車場の確保や、市中心部の公共交通の便のいい場所で出張講座をしてくれるといい」などの、開講場所に関する要望する声には耳を傾ける必要があろう。



3 公開講座に関するアンケート

公開講座の改善と講師の資質向上を目的として行った。本調査では、平成15年6月から10月までの間に実施された岐阜市立女子短期大学公開講座の受講者を対象に講座の終了時に調査を行った。調査に参加いただいた講座は、8講座で調査対象は79名である（表1）。

1) 調査項目、調査結果

0. ご自身のことについて差し支えなければお伺いします。

- ①性別 (1) 男性12名 (15.2%) (2) 女性65名 (82.3%)
- ②年齢 (1) 10代2名 (2.5%) (2) 20代5名 (20.3%) (3) 30代16名 (20.3%) (4) 40代14名 (17.7%) (5) 50代19名 (24.1%) (6) 60代20名 (25.3%) (7) 70代以上2名 (2.5%) 無回答1名
- ③職業 (1) 会社員4名 (5.1%) (2) 自営業6名 (7.6%) (3) 公務員5名 (6.3%) (4) 学生1名 (1.3%) (5) 主婦

43名 (54.4%) (6) 無職11名 (13.9%) (7) その他5名 (6.3%) 無回答4名

④住所 (1) 県内78名 (98.7%) (2) 県外0名 (0.0%) 無回答1名

⑤本大学の公開講座への参加は今回で何回目になりますか。

(1) 初めて57名 (72.2%) (2) 2～4回18名 (22.8%) (3) 5回以上0名 (0.0%) 無回答4名

1. この講座を何で知りましたか（複数回答可）

(1) 広報誌（広報ぎふ・その他）49名 (57.0%) (2) 新聞3名 (3.5%) (3) テレビ・ラジオ4名 (4.7%) (4) インターネット4名 (4.7%)

(5) チラシ・パンフレット6名 (7.0%) (6) その他3名 (3.5%) 無回答17名

2. この講座を選んだ理由を特に当てはまるものから2つお選びください。

(1) 仕事に役立つと思ったから15名 (19.0%) (2) 生活に役立つと思ったから21名 (26.6%) (3) テーマが良かったから33名 (41.8%) (4) 講師が良かったから1名 (1.3%)

(5) 受講料が安いから1名 (1.3%) (6) ここ以外ではこのような講座はない（と思う）から3名 (3.8%)

(7) その他2名 (2.5%) 無回答3名

3. この講座の満足度について

満足度を5段階で評価する方法をとった。

①あなたの講座受講目的は達成されましたか

1：2名 (2.5%) 2：3名 (3.8%) 3：11名 (13.9%) 4：27名 (34.2%) 5：31名 (39.2%)

②講座内容について

i) わかりやすかったですか

1：1名 (1.3%) 2：3名 (3.8%) 3：10名 (12.7%) 4：26名 (32.9%) 5：36名 (45.6%) 無回答3名

ii) 講座内容に興味をもてましたか

1：0名 (0.0%) 2：0名 (0.0%) 3：5名 (6.3%) 4：31名 (39.2%) 5：39名 (49.4%) 無回答4名

③教材の提示方法（プリント、スライド、OHP など）

1：1名 (1.3%) 2：0名 (0.0%) 3：14名 (17.7%) 4：29名 (36.7%) 5：31名 (39.2%) 無回答4名

④施設（講義室の設備など）

1：0名 (0.0%) 2：1名 (1.3%) 3：7名 (8.9%) 4：22名 (27.8%) 5：45名 (57.0%) 無回答4名

⑤受講料（1に高い、3に適当、5低いの表示）

1：2名 (2.5%) 2：3名 (3.8%) 3：39名 (49.4%) 4：6名 (7.6%) 5：25名 (31.6%) 無回答4名

*⑤受講料で③（適当）以外に○をつけた方にお伺いします。いくらが適当だと思われましたか。

1000円から10000円まで、7名から回答があり、平均は2571円

公立大学に於ける公開講座の意義

だった。

4. その他本講座の内容や形態などについてお気付きの点がございましたらご自由にお書きください。

5. 希望する開催曜日・時間帯はいつですか。

①曜日について

i 平日40名 (50.6%) ii 土曜日19名 (24.1%) iii 日曜日4名 (5.1%) 無回答16名

②時間帯について

i 午前55名 (69.6%) ii 午後8名 (10.1%) iii 夜間2名 (2.5%) 無回答14名

具体的な開始時間には27名から回答があり、9:00 3名、9:30 6名、10:00 10名、10:30 1名、13:00 3名、13:30 1名、18:30 1名、19:00 1名、19:30 1名だった。

2) 考察

受講した講座の満足度について目的の達成度の高い割合 (73.4%) に対し、低い割合 (6.3%) が低く、興味をもてた割合も89.6%と高かった。教材の提示方法、講義室の設備についても、満足度はそれぞれ78.9%、84.8%と高い。受講料は一回につき、無料から2000円前後と幅があったが、適切との回答が49.4%であり、高いとの回答 (6.3%) に比べ、安い (39.4%) との回答が多かった。適切でないとの回答したうち、7名が具体的な金額を示したが、この平均は2571円だった。開講された講座は、受講者から満足のいく評価を得たと考えて差し支えない。ただし、講座の内容や形態についての自由記述の中で、聞き取れない、スライドが明るすぎてみづらかった、もう少し時間の余裕がほしかった、等の意見には耳を傾ける必要があろう。

4 まとめ

本年度行った公開講座に対する意識調査を昨年度の調査と比較することにより、以下の各点を指摘することができる。まず第1に公開講座の告知方法についてであるが、受講者は岐阜市の広報誌を見ることにより参加しており、これ以上受講者の幅を広げるためには、公共施設へのポスター、チラシの配布、ダイレクトメールの送付などの手段を講じる必要があると考えられる。次に、受講者の意識として、幅広い教養を身に付けることができるものと、資格に対応したものが求められており、これらを体系付けて講座を開講する必要があることが挙げられる。資格に対応した講座では、特に英語検定、TOEIC等の語学に対する要望が強く、これに加え、インテリアコーディネーター、カラーコーディネーター等の資格にも高い関心が窺える。これらに加え、本年度行われたTES対応講座を資格対応講座と位置付けて整理する必要があるだろう。さらに、趣味に関する知識・技術を身に付ける講座として、パソコンなどの実用講座、健康、料理に関する講座等を位置付ける。この際、適切なテーマを設定することにより、マンネリ化を防ぎ、公開講座全体の構成が明確になるような工夫が必要となろう。最後に、本学キヤ

ンパスを中心に開講されているが、公共交通手段が必ずしも充実しているわけではないので、市中心部にサテライトを設けて開講することも検討に値する。少なくとも、開講時間をバスの時刻に合わせる程度の工夫は必要であろう。

謝辞

調査の趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力いただいた講師、受講者の皆様、並びに、集計にご協力いただいた本学事務局職員の方々に深く謝意を表します。

脚注

- i 岐阜市総合企画部総合企画課、『岐阜市第四次総合計画前期基本計画』、岐阜市、1996、p.162
- ii 横浜市の横浜市民大学講座、我孫子市のあびこ楽校、藤沢市の藤沢市生涯学習大学、東広島市の東広島市生涯学習システム、宇部市のふれあい市民大学“うべ”システムなど、日本全国の各市で、長良川大学と類似の生涯教育を行っている。
- iii 岐阜市立女子短期大学は、長良川大学のリカレント課程大学公開講座に位置づけられ、現在まで公開講座を行っている。岐阜市文化・生涯学習課、『生涯学習長良川大学2002ガイドブック』、岐阜市、2002、p.27
岐阜市生涯学習室、『生涯学習長良川大学2003ガイドブック』、岐阜市、2003、p.26
- iv 平真由美、今井素恵、藤田美加、岡本佐恵子、「公開講座に対する意識調査について」、『岐阜市立女子短期大学紀要第52輯』、岐阜市立女子短期大学、2003、p.263-p.273
- v 国立社会保障・人口問題研究所、『日本の世帯数の将来推計 (全国推計)』、国立社会保障・人口問題研究所、2003、p.3
- vi 中央教育審議会生涯学習分科会・平成14年度社会教育調査中間報告 (説明資料) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/siryou/001/03103101/003.htm
- vii 同上
- viii 『岡崎市生涯学習推進計画』、<http://www.city.okazaki.aichi.jp/yakusho/ka6560/Ka195.htm>
- ix 昭和56年 (1981) 6月11日付中央教育審議会答申「生涯教育の意義」
- x 鈴木和也、「生涯学習社会を構築するための学社融合に関する研究」、『平成14年度山梨総合教育センター生涯学習研究室長期研修員研究報告書』、山梨県総合教育センター、2003、p.147
- xi 文部省生涯学習審議会答申「地域における生涯学習機会の充実方策について」http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/shingi/index.htm
- xii 文部省生涯学習審議会答申「社会の変化に対応した今後の

- 社会教育行政の在り方について」http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/shingi/index.htm
- xiii 我孫子市生涯学習部、『我孫子市生涯学習推進計画』、我孫子市、2002、p. 3
- xiv 文部科学省、『文部科学省総合評価書―地域社会の期待に応える人材育成方針―』、文部科学省、2003、p.45
- xv 同上、p.46
- xvi 同上、p.30
- xvii 『第2次横浜市生涯学習基本構想（平成11年11月）』、<http://www.city.yokohama.jp/me/gakusyu/concept/index.html>
- xviii 横浜市立大学、『横浜市立大学の新たな大学像について』、横浜市立大学、2003、p.26
- xix 横浜市立大学事務局、『～市立大学改革案に対する設置者（横浜市）の基本的な考え方について～』記者発表資料、横浜市立大学、2003、p. 4
- xx 新田照夫、『大衆の大学と地域経済―日米比較研究―』、大学教育出版社、1998、p.240
- xxi 前掲書.11
- xxii 村田治、『生涯学習時代における大学の戦略―ポスト生涯学習社会にむけて―』ナカニシヤ出版、1999、p. 9
- xxiii 現実のところは大学の公開講座の場合、かなり大規模で行っている公開講座であっても、学習成果の評価として学位授与や資格の取得などの要因がない限り、純粋に経営を資金的に援助するほど利益のあがるものは少ない。多くの場合は、学生の確保を目指した宣伝を兼ねていることで、広義の意味で経営を援助している。
- xxiv 同上
- xxv 文化服装学院、『文化服装学院2002保存版 BUNKA ファッション・オープン・カレッジ』パンフレット、2002
- xxvi 現在はまだ、オープンカレッジ単体での純粋な経営は困難であるが、文化服装学院の専門学校・大学などの豊富な人材を講師とするなど、効果的な経営を考えている先進的な事例である。将来的にはオープンカレッジを経営の一つの柱にすることを視野に入れている。文化服装学院オープンカレッジスタッフに対する取材より。2002
- xxvii 調査の概要と結果の考察については既報、平真弓他、前稿参照。
- xxviii 開催予定の講座を含む。
- xxix 調査意図、調査計画については前稿を参照。

（提出期日 平成15年12月10日）